

プレゼンテーション上達支援システムの試作 Development of the prototype web-application for reviewing oral-presentations

金本 勇紀[†] 末吉 智奈佐[‡] 仲 隆[†]
Yuki Kanemoto Chinasa Sueyoshi Takashi Naka

1. はじめに

社会での様々な局面で、プレゼンテーションをする必要があるが、プレゼンテーションを好む人は少ない。プレゼンテーションの目的は、伝達したい情報を相手にはっきりと確実に理解してもらうことである。そのためには、プレゼンテーション力を高めることが重要であり、苦手意識をなくすることがその近道である。株式会社日立ソリューションズの調査によると、プレゼンテーションは得意か不得意かとの質問に対し不得意と答えた人は、全体のおおよそ 7 割に達していたというデータがある [1]。プレゼンテーションに対する苦手意識を改善するには、発表後に自分の欠点を見直すフィードバックが重要である。フィードバックを行うことで効果的に欠点を改善することができる。

フィードバックを用いてプレゼンテーション力を高めるために、岡田らは、プレゼンテーションを行う発表者が聴衆から指摘事項を受け取ることができるシステムを提案した [2]。このシステムでは、発表者がプレゼンテーションに用いる発表用のスライド資料を予め登録する。聴衆は、登録されたスライド資料を閲覧しながら、発表を聴講しコメントを投稿する。発表者は、プレゼンテーション終了後に聴衆から投稿されたコメントを閲覧し欠点の改善に活かすことが可能となる。聴衆からのコメントは、指摘箇所の把握と指摘に対する優先度を判断するためにグラフで可視化される。

しかし、岡田らの提案したシステムでは、プレゼンテーションを録画するわけではないので、発表者の評価に関するコメントは、発表中にしか投稿できない。また、評価の対象が主に発表用のスライド資料であるため、プレゼンテーション全体の評価に向いていない。そこで本研究では、プレゼンテーション後のフィードバックを利用してプレゼンテーション力の向上を図り、同時にプレゼンテーションの苦手意識の改善を目的としたシステムの試作を行う。試作するシステムでは、プレゼンテーションをビデオとして録画し、それを共有スペースに発表者別、発表会別、練習・本番別に分類して登録・保存することにより、相互に評価することができる仕組みを実装する。これによりプレゼンテーションの評価はプレゼンテーション後でも行うことができるようになる。また、評価シートを使用して発表用資料だけでなく、プレゼンテーション全体の評価を相互に行うことができる。

2. システムの概要

本システムは、複数のユーザが簡単に相互に評価をできるように Web アプリケーションとして実装した。また、ユーザ数としては 10 名程度を想定している。これは大学の研

[†]九州産業大学 Kyushu Sangyo University

[‡]九州産業大学大学院 Graduate School of Information Science, Kyushu Sangyo University

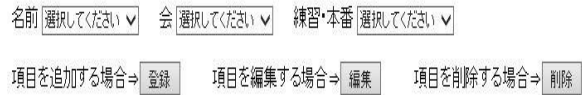


図 1 管理者画面

究室での利用を想定しているためである。ユーザインタフェースは、管理者用の画面とユーザ用の画面から構成する。

管理者用の画面を図 1 に示す。管理者は、システムの利用者名、発表会名、および、練習・本番名をデータベースに事前に登録する。練習・本番名とは、特定の発表会に先立って行う複数のリハーサルと本番の識別名である。管理画面では、登録した項目の編集や削除も可能である。項目の追加・編集・削除は、まずプルダウンメニューで項目を特定し、次に下のボタンから追加・編集・削除のいずれかを選択することにより行う。例えば、ユーザ A の登録名を削除したいときは、プルダウンメニューでユーザ A を選択し削除ボタンを押す。

利用者用の画面を図 2 に示す。システムの利用者は、システム管理者によって作成された発表者別、発表会別、練習・本番別の分類に従い、共有スペースに動画をアップロードすることができる。データアップロードの際は、発表者名、発表会名、練習・本番名を指定した後、アップロードボタンをクリックする。データを削除したいときは、同様にデータを指定した後、削除ボタンをクリックする。一般ユーザが削除できるのは自分に関するデータのみである。管理者は、どのデータの削除も可能であり、データの一括削除も行える。一括削除をする際はプルダウンメニューの選択で、ALL を選択する。

プレゼンテーションの評価のために、動画を閲覧したい場合は、発表者名、発表会名、練習・本番名を指定した後、評価ボタンをクリックする。指定された動画は、検索欄の下に表示される。プレゼンテーションの評価は、表示される動画の下に表示される評価入力欄で行う。評価は、項目ごとに 5 段階で行う。また、自由記述のコメントを書き込むための自由記述欄を設ける。これにより多くの意見を取り入れることができる。評価項目は、次の 8 つである。

1. 最初に全体の流れを伝えていたか
2. 聞きやすい話し方であったか
3. 身振り、手振り、体を使い表現していたか
4. 図や表、グラフなどを用いて見やすかったか
5. 時間配分は適切だったか
6. 熱意は伝わったか
7. 質疑応答の回答は適切だったか
8. 総合的に見て良いプレゼンだったか

評価結果はデータベースに登録され、評価の整理の軸を上部のプルダウンメニューから選択し、評価結果表示ボタンをクリックすると、整理して表示される。評価結果画面

名前 会 練習・本番

評価する場合⇒ アップロードする場合⇒ データを削除する場合⇒

評価集計結果を表示する場合⇒



・最初に全体の流れを伝えていたか

・聞きやすい話し方であったか

・身振り、手振り、体を使い表現できていたか

・図や表、グラフなどを用いて見やすかったか

・時間配分は適切だったか

・熱意は伝わったか

・質疑応答の回答は適切だったか

・総合的に見て良いプレゼンだったか

・自由コメント

図2 利用者画面

の例を図3に示す。図は、発表者名と発表会名を指定した場合で、リハーサルを迫うごとのプレゼンテーションの評価の変化を比較することができる。評価結果は、番号で示された評価項目ごとに表形式で表示される。数字は、複数の評価者による評価があった場合にはその平均値である。自由記述欄に書き込まれたコメントはコメント欄に表示される。発表会名と練習・本番名を指定したような場合は、他の発表者との比較結果をみるとことができる。

3. システムの開発環境

システムの開発環境として XAMPP を用いる。開発言語は HTML5, PHP, データベース管理システムとして MySQL を使用する。XAMPP は PHP を使った Web アプリケーションの開発において必要な環境を 1 つのインストーラーで一斉にインストールできる [3]。利用する XAMPP のバージョンは Windows 版の 5.6.8 である。

4. まとめ

本研究では、プレゼンテーション後のフィードバックを利用して、プレゼンテーションに対する苦手意識の改善とプレゼンテーション力の向上を支援するシステムの試作を行った。システムは複数の利用者が相互に簡便に評価しあえるように、Web アプリケーションとして実装した。システムは、管理者用の画面と利用者用画面から構成される分かりやすいシンプルなユーザインタフェースを持ち、プレ

練習・本番名	1	2	3	4	5	6	7	8	コメント
リハーサル1	2	1.5	1	2	2	3	1	2	図などを使うと良い
リハーサル2	3	4	3	3.5	4.5	3	2.5	4	大変分かりやすかった

- 1.最初に全体の流れを伝えていたか
- 2.聞きやすい話し方であったか
- 3.身振り、手振り、体を使い表現できていたか
- 4.図や表、グラフなどを用いて見やすかったか
- 5.時間配分は適切だったか
- 6.熱意は伝わったか
- 7.質疑応答の回答は適切だったか
- 8.総合的に見て良いプレゼンだったか

図3 評価結果表示画面

ゼンテーションの動画を見て評価結果を保存・管理・表示することができる。今後は、試作したシステムを研究室で実際に運用することにより、評価を行い、必要な改良を行っていく予定である。

謝辞

本システムを試作するにあたり、様々な意見や評価を教授していただいた仲研究の皆様に深く感謝致します。

参考文献

- [1] 株式会社日立ソリューションズ, “心を動かすプレゼンテーション術 ～資料作成編～ 説得力のあるプレゼンテーションスキルを身につける・CHAPTER 1 「プレゼン苦手が7割」 みんなのプレゼン調査 | 日立ソリューションズ”, <http://www.hitachi-solutions.co.jp/column/tashinami/presentation/>, (2010—2015)
- [2] 岡田 成良, 吉田 博哉, “プレゼンテーション力向上のためのフィードバック支援システムの提案”, 情報処理学会第 76 回全国大会, 5EZ-6 (2014).
- [3] XAMPP Apache + MySQL + PHP + Perl, <https://www.apachefriends.org/index.html>, (2015).